

【脳神経外科】

1 研修目標

(1) 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

医師として基本的に必要な脳神経疾患についての知識、診断・検査及び医療技術を習得することを目標とし、手術にも積極的に参加する。

- ① 医師として必要な基本的な神経学的診察法、検査手技を習得する。
- ② 画像診断に必要な基本的知識を習得する。
- ③ 神経系疾患が疑われる救急患者に対して、適切な初期対応ができる。
- ④ 一部の脳神経外科疾患における術前・術後管理を習得する。
- ⑤ 指導医のもと、穿頭ドレナージ術等の局所麻酔手術の術者となる。

(2) 行動目標 (SBOs: Specific Behavior Objectives)

- ① 脳神経系の診察: 指導医とともに適切な病歴聴取、神経学的診察を行い、神経解剖学に基づいた局在診断を行うことができる。
- ② CT 及び MRI: CT 及び MRI 画像を読影でき、基本的な脳神経疾患の画像診断ができる。
- ③ 集中治療室における管理: 重症の脳血管障害や頭部外傷患者に対して集中治療室において全身管理を学ぶ。
- ④ 局所麻酔下での手術: 手術の適応や危険性を理解し、手術に参加する。また、可能な限り指導医のもとで術者を経験する。適切な術後管理を行うことができる。家族への術後の説明に立ち会う。
- ⑤ 脳神経系治療薬: 抗痙攣剤や抗脳浮腫剤等の脳外科領域で汎用される薬剤について効能と副作用を学び、習得する。
- ⑥ その他: 当科では症例報告となり得る珍しい症例も多く、常に最新の文献を検索し、そこから学ぶ姿勢を身につける。
- ⑦ 急性期の脳卒中管理とリハビリの実施後、回復期リハビリ病院を含めた転院/退院らの動向計画の立案と実施に携わる。

2 研修方略

(1) 研修期間

1ヶ月程度の研修期間中主治医と共に担当医師として診療に携わる。

(2) 方法

救急症例の初期治療、病棟でのさまざまな処置や検査手技を実際に行い体得する。症例に即した小講義を適宜行う。また、珍しい症例を経験した場合には学会発表や論文執筆（症例報告）の指導も併せて行う。

行動目標	方法	場所	担当者
②③⑥⑦	見学、参加	救急室、病室	杉山
⑥	実地診療	救急室、手術室	杉山
⑤⑥	自習		

(3) 週間スケジュール

月曜 救急・病棟、脳ドック
 火曜 外来
 水曜 外来
 木曜 救急・病棟、脳ドック
 金曜 回診カンファレンス・病棟、脳ドック

3 研修責任者

脳神経外科 部長 杉山 修一

4 研修指導医

脳神経外科 部長 杉山 修一

5 評価

- (1) 研修医は別掲の経験目標に従って自己の研修内容を記録し、指導医に提出する。また手術及び処置の手技、診療能力の評価を指導医に受ける。
- (2) 指導医は研修医の研修態度について評価する。
- (3) 経験目標の達成状況を評価する。チェックリストを用い、研修医自身及び指導医が実施する。
- (4) 到達目標・経験目標の達成状況を当科研修期間終了時に、指導医が評定尺度（5段階評定）により行う。また、研修医による指導医及びプログラムの評価も同様に行い、その結果は指導医、診療科へフィードバックされる。
- (5) 指導医は上記評価結果を総合し、当科研修終了の判定を行う。